

目 次

著者 (Nazzareno Bassetti)	v
発刊に寄せて (Prof. Dr. Rudolf Slavicek、佐藤貞雄教授)	vi
序文 (Nazzareno Bassetti)	vii
謝辞 (Nazzareno Bassetti)	viii
日本語版の出版に寄せて (佐藤貞雄)	xiii
略語解説	xiv

Chapter 1 顎咬合学における原理・原則 1

序論	1
顎咬合学的思考	3
標準的な診断のための患者の分類	4
治療リスクの削減と管理	5
患者の主な要望	5
頭蓋頭部下顎障害 (CCMD) の徴候と症状の探索	5
どのように介入するべきか?	13

Chapter 2 アナログとデジタルの咬合診断の流れ 15

序論	15
臨床的および機能的分析 1	16
印象採得から診断模型の作製	16
フェイスボウと上顎模型の咬合器への付着	21
下顎基準位の採得と下顎模型の咬合器への付着	31
患者と模型の写真撮影について	36
セファログラム (側方、正面)、パノラマエックス線写真	44
パラファンクションの咬合分析：ブラックスチェッカー	46
下顎位の CPM および CPV 分析	48
患者面談：初回診断	50
臨床的および機能的分析 2	51
顎咬合学チャート	51
問診票	51
コンディログラム (Cadiax [®] システム) による顎運動の記録	53
コンディログラムの構成要素	54

パラオクルーザルクラッチ	55
顎関節の動きの記録	56
コンディログラフトレーシングの評価	58
最終評価、診断、治療計画	61
診断	61
治療計画	61

Chapter 3 下顎位と顔貌の審美的調和 (マクロエステティック) 63

序論	63
サイバネティックシステム	64
歯と顔貌の審美的基準	66
審美の基盤となる構造	71
骨格パターンの分類	73
Cadidas [®] による側方セファロ分析	75
側方セファロ分析における基準点と基準平面	76
骨格的基準点	76
デンタル基準点	77
軟組織基準点	77
基準線と基準平面	77
正面セファロ分析	78
ウィーン学派のセファロ分析とは	79
垂直面の分析	79
側方セファロ分析における骨格パターンの分析	82
歯の排列位置に関する分析：切歯	83
動的解析：臼歯離開角 (AOD: Angle of Disclusion)	86
切歯群の機能と審美の関係	88
上顎切歯	88
下顎切歯	90
咬合高径と切歯	92

Chapter 4 咬合平面 95

序論	95
咬合平面と顎顔面頭蓋の発達	97
正常な成長	101

II級骨格の成長	102
III級骨格の成長	103
下顎の側方偏位の成長	106
佐藤によるポステリアー・ディスクレパンシーの概念	107
第三大臼歯の歯胚の早期抜歯	108
咬合平面	112
OPとTMJの関連	113
代償機構	114

Chapter 5 咬合の概念 115

序論	115
歯列の発達	116
無歯期	117
乳歯萌出期	118
乳歯列咬合期	119
混合歯列咬合第1期	122
混合歯列咬合第2期	124
永久歯咬合および成熟期	126
機能的なアーチと歯列の構造	127
歯列弓の機能領域	130

Chapter 6 ウィーン大学による咬合高径プロジェクト 133

序論	133
デジタルファンクショナルスマイルデザイン (DFSD)	134
三次元的な咬合高径の管理	135
回転および回転滑走における咬合高径の変動	140
咬合および骨格関係の変動および咬合平面の傾斜と切歯関係の変動	142
顎咬合学に基づくインプラント治療の概念	143

Chapter 7 咬合下顎位修正法 (Bassetti) 147

序論	147
下顎基準位 (RP) と治療下顎位 (ThP) の概念	147
機能的空間と咬合高径	149
下顎位修正における咬合平面および咬合高径の管理	152

下顎位修正における上下顎小臼歯の役割	153
下顎位修正のためのスプリント	155
治療のためのプロビジョナル	157
CPV を用いた咬合再構成	158
治療用プロビジョナルから症例の最終仕上げまで	160
MEAW を用いたリハビリテーションを目的とした矯正治療 (佐藤)	163
早期下顎位修正法 (EMRT)	166

Chapter 8 治療計画における10のポイント 169

序論	169
治療計画における10のポイント	169
1. ポステリアー・ディスクレパンシーの除去	169
2. 垂直的咬合高径のコントロール	169
3. 臼歯部咬合支持の確立	169
4. 咬合平面の傾斜と顎路角 (SCI) との関係	169
5. 順次誘導咬合 (I、II、III級および交叉咬合)	170
6. 切歯誘導路角と顎路角 (SCI) との関係 (切歯の調整)	170
7. 犬歯誘導路角と顎路角 (SCI) との関係 (側方および前方運動のコントロール)	171
8. 小臼歯および大臼歯と顎路角 (SCI) との関係	171
9. 第一大臼歯による後方移動コントロール	172
10. 上下顎第一小臼歯による後方および前方運動のコントロール	172

臨床ケーススタディ 173

序論	173
症例 1 (2006年) : Class IIIの症例における咬合高径の変化とインプラント補綴のリハビリテーション	173
症例 2 (2004年) : Low Angle、Class II症例 : 矯正・インプラント・補綴によるマルチディシプリナリーアプローチで治療	184
症例 3 (2007年) : Low Angle、Class III症例 : インプラント補綴による咬合高径の変化	193
参考文献	202
索引	204
日本語版翻訳者を代表して (青木 聡、吉田松平)	208